

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (桑名西高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの意志で学び、より高みに向かおうと挑戦する意欲にあふれた学校 ○ 協働と交流を通して、たくましく生きる力と他者への思いやりが育つ学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の興味関心や適性、働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる。 ○ 授業を大切にするとともに、各教科の学習活動に自発的・協同的に参加し、知識と技能、思考力・判断力・表現力を育む努力ができる。 ○ 部活動との両立等、時間管理を意識して家庭学習習慣を定着すること、進路実現に向けて自分自身の学習スタイルを確立することができる。 ○ 基本的な生活習慣等、人としてのあり方生き方のすべてにつながる土台となる部分が定着し、挨拶や交通ルールが遵守でき、他者への配慮ができる。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、生徒に関する情報や校務運営の情報が十分に共有され互いに協力し合っている。 ○ 授業をはじめとしたすべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めている。 ○ 普通科の理念(共通性を重視し、幅広い教養を身につける)を生かし、教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場を目指している。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <p>基礎基本から様々な進路希望に対応した専門分野に関する内容まで、興味関心を喚起する授業。安心してのびのびと豊かな学校生活を送るための教育環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かい指導・支援。</p> <p><保護者></p> <p>学力伸長と進路希望実現に向けた学習指導・進路指導・生徒指導の充実。学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。安全・安心な教育環境。</p> <p><地域></p> <p>学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭></p> <p>学力伸長および進路希望実現や、豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。</p> <p><中学校></p> <p>本校の特色や生徒の学校生活の様子、進路状況などの情報提供。</p> <p><地域></p> <p>学校行事等の公開。地域活性化のために地域行事や防災活動等への生徒の参画。</p>	<p><家庭></p> <p>学校教育への理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた支援。</p> <p><中学校></p> <p>基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。情報交換と協力・支援。</p> <p><地域></p> <p>学校の教育活動や生徒が生き方や働き方を考えるための協力・支援。</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大学がより一層多様化し、また、学部や学科名が同じであるにもかかわらず教授内容が異なる場合も多くなってきている。生徒が学部の内容をよく理解せずに進路決定してしまうことも考えられ、進路面談など進路指導の一層の充実を図る必要があるのではないか。 ・生徒たちが進路等に関する情報を得る場合、図書館やインターネットの活用が一層必要になってくる。図書館の充実やインターネット利用環境の改善が必要ではないか。 ・働き方改革の点から、教職員の時間外労働時間の削減にむけて外部人材を活用することが求められており、ボランティアや地域の協力をもっと得る必要があるのではないか。 ・防災教育については、桑名市とも連携する必要があり、地域の人々にも、日頃から桑名西高校をもっと知ってもらったり、足を運んでもらう機会を作ることが、災害時の避難に繋がる。また、今後さらに高校生の力を活用することが大切ではないか。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会につながる力の育成に向け、知・徳・体のバランスがとれた、自ら挑戦する心を持って自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成を目指すことが求められている。 ・近年難関大学への進学志向が高まっており、AO・推薦入試をはじめ、センター試験利用や一般入試によって自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。 ・第一志望合格に向けて粘り強く学習して国公立大学を目指す指導を強化しており、地域の中堅進学校として授業力向上や進路指導体制の改善が必要である。
	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の社会で求められる力を着実に身につけさせるため、総合的な探究の時間の在り方を検証し、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図る必要がある。 ・居室が分散し、各学年や分掌、教科を越えた横断的な取組について話し合う機会が制限されているため、教職員間での情報共有や意識統一を円滑に図るための工夫が必要である。 ・日頃から教職員間の対話を重視し、情報共有の方法や会議の運営等について工夫改善を図り、学校全体として多忙化の解消と組織力向上に取り組むことが重要である。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒がより高い目標を設定し、自ら学ぶ姿勢を身につけ、自己の可能性を伸ばすことができる学習活動を推進する。 ・新学習指導要領や高大接続改革の答申を踏まえて、生徒の進路希望実現に必要な読解力・文章力・表現力等が身につけられるよう、教職員一人ひとりが指導力の向上を図る。 ・高校生活を通して主体的に行動することができるようになり、社会性、協調性、責任感、創造力、企画力、コミュニケーション力、忍耐力などを身につけ、心身共にたくましく他者への共感ができる生徒を育成する。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学力向上に向けた教科横断的な取り組みや、学年・分掌間の連携を密にして、新たな企画や改善策を積極的に提案し合う体制を構築する。 ・あらゆる場面で生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、これまで教科や学年を中心に進めてきた授業力向上の取り組みを学校全体で行い、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図るよう検討する。 ・学校全体で目的意識の共有化を図り、組織力を向上させるとともに、地域の多様な関係者と連携することなどにより、有意な社会人を育成するために最適な教育環境を創造する。

生徒指導の 充実	<p>(1)「当たり前を素晴らしく」をモットーに、生徒自らが時間を守る大切さ、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組む。</p> <p>(2)生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をし合える状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にできる態度を育て、人間関係を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全(特に自転車事故の防止)、ネットモラル等の講演会の実施。 ・年間を通じた登下校指導の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣やマナーを身に付け、自ら進んで挨拶をすることができる生徒の割合 8割 	(年度末および適宜記載)	◎ ◎
心と体の健康の 充実	<p>(1)高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理能力をつける。</p> <p>(2)早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・教育相談専門員との連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」を年間12回以上発行 ・「いのちの教育」について生徒対象講演会を年1回実施。 ・教育相談の充実に向けた教員研修を年1回実施。 ・部活動休養日を週1日設定。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合 8割 	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>(1)教科会を定例化・活性化し、授業内容・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。</p> <p>(2)校内研修会の充実および外部研修等の成果を全職員で共有する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学を1・2学期に各1週間実施。 ・各部主催の教職員研修を各年1回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合 8割 	(年度末および適宜記載)	◎

<p>組織力の向上</p>	<p>(1)日頃から教職員間の対話を重視するとともに、打合せや会議をとおして、生徒に関する情報や校務運営の情報共有を密にする。</p> <p>(2)学年・分掌の協力体制を強化し、進路指導や生徒指導、教育相談の情報共有を活発に行う。</p> <p>(3)「運営委員会」「学校マネジメントシステム委員会」において、組織運営及び入試制度や進路指導の在り方等について継続して検証する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織力の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合 7割 	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>地域から信頼される、安全・安心な教育環境の構築</p>	<p>(1)いじめや体罰がない安全・安心な学校を目指し、日頃から生徒理解と迅速で適切な対応を心がける。</p> <p>(2)人材育成を地域とともに推進していくために、生徒の様子や具体的な教育内容・方針について、積極的に情報発信する。</p> <p>(3)授業や学校行事の公開、学校施設の地域開放、協働して行う挨拶運動や美化活動などとおして、保護者や地域との連携を一層深める。</p> <p>(4)現在および将来に直面する災害に対して、適切な意志決定や行動選択ができるようにするため、地域と連携して防災教育の充実と防災意識の向上を図る。</p> <p>(5)夏季休業中にクラブ見学会、9月に学校説明会を開催することにより、桑名西高校の魅力を中学生や保護者に発信していく。</p> <p>(6)教育公務員として法令を遵守するとともに、高い倫理観と崇高な使命感を持って職務に専念し、不祥事根絶に向けて職員会議などで討議していく。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP やきずなネット、学年通信等による積極的な情報発信。 ・防災訓練や防災研修会を年2回実施。 ・学校が企画して実施する地域連携行事の拡充を図るとともに、地域から参加要請があった各種行事への積極的な参加。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が適切であったと回答した保護者の割合 8割 ・年1回以上地域の活動に参加したと回答した生徒の割合 7割 ・学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合 8割 	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p>

働きやすい職場づくり	<p>(1)会議の精選や時間の短縮などにより労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。</p> <p>(2)互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするとともに、教職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由闊達に意見を言い合える職場環境づくりに努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日(月2回)を実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合 80%を目指す。(昨年実績月 1 回 88.9%) ・部活動休養日を原則週1日設定し、計画通り実施できた部活動の割合 100%を目指す。(昨年実績 94.3%) ・放課後に開催される会議が 60 分以内に終了する割合 90%を目指す。(昨年実績 82.4%) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合 70% (昨年実績 65.0%) ・休暇を一人平均年17 日以上取得。(昨年実績 15.8 日) ・時間外労働月 80 時間を超える職員の年間延べ人数を 1 割削減 (昨年実績 48 人) ・時間外労働を一人平均月 1 時間削減 (昨年実績一人平均月 26.2 時間) 	(年度末および適宜記載)	◎ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)